

令和 6 年度

健康局の取組について

大阪市における在宅医療・介護連携推進事業のめざすべき将来像

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、多職種協働により在宅医療と介護を一体的に提供できる体制が構築されている。

めざすべき将来像に向けての局の取組

1. 事業の進捗管理
2. 広域連携の仕組みづくり
3. 区役所・相談支援室に対する積極的支援

1. 事業の進捗管理

今年度の取組

(1) 評価指標での進捗管理

大阪市在宅医療・介護連携推進事業に関する医療施設等アンケート調査を実施し、現状分析するとともに、課題を抽出する

(2) 区役所・相談支援室への取組調査からみる事業の進捗管理

区役所・相談支援室への取組調査を年2回実施し、各区の進捗状況を把握する
(資料1にて報告済)

医療施設等アンケート調査 取組(1)

①調査期間：令和6年10月30日～12月6日

②回収方法：郵送、FAX、Web、メールのいずれかの方法

対象施設	対象数	回収数	有効回答数	有効回答数 /対象数
病院	173	107	107	61.8%
在宅療養支援診療所	747	460	460	61.6%
在宅療養支援歯科診療所	340	196	195	57.4%
在宅患者訪問薬剤管理指導料届出薬局	1,654	1,251	1,251	75.6%
訪問看護ステーション	777	494	494	63.6%
合計	3,691	2,508	2,507	67.9%

2. 広域連携の仕組みづくり

今年度の取組

- (1) 基本保健医療圏域ごとの多職種研修会の開催（在宅医療推進会議にて報告済）
- (2) 11月をACP強化月間として全区で取組み、市民へのACPの普及啓発を推進する（資料2にて報告済）
- (3) 大阪市「在宅医療・介護連携推相談支援室」活動報告会の開催

市民への人生会議（ACP）の普及啓発 取組（2）

人生会議（ACP）普及啓発セミナー

【日 程】 令和6年10月22日（火）午前と午後 各1回

【場 所】 大阪市保健所

【内 容】 講義・VR体験・グループワーク

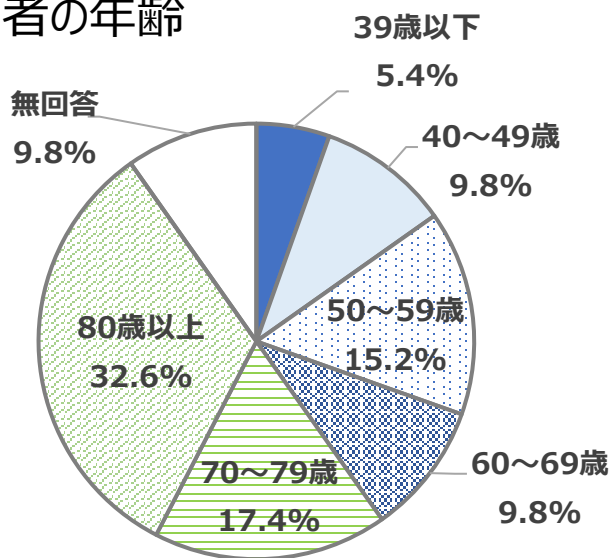
（救急医療における心肺蘇生、生きとし生けるもの）

<参加者数>

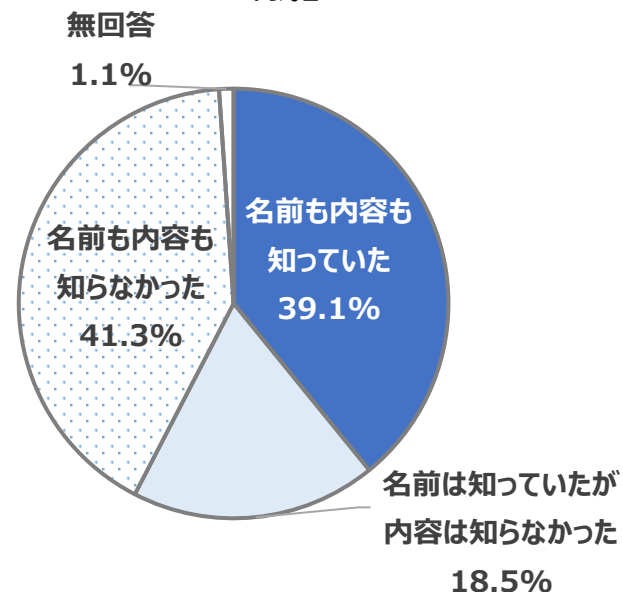
99名（内訳 午前49名 午後50名）

<アンケート結果> 回収数 92名（回収率 92.9%）

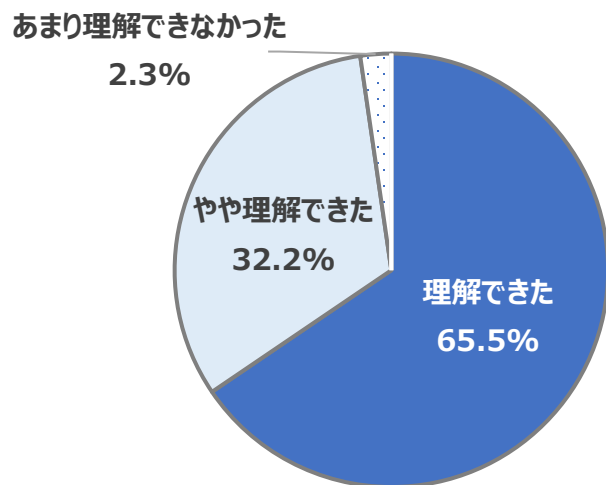
1) 参加者の年齢



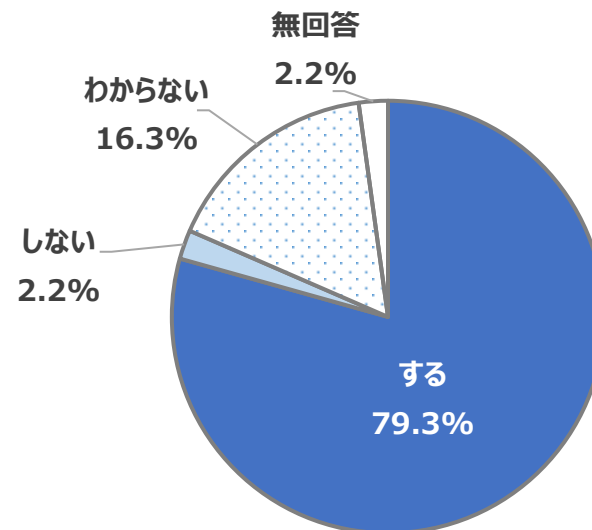
2) セミナー前の「人生会議」認知度



3) セミナーの理解度



4) 「人生会議」をしようと思うか



【良かった点】

- ・VRによって体験することで、言葉だけで聞くより分かりやすく、考えさせられた。
- ・人生会議の意味が解かった。自分のため、家族のためにも、話し合っておくべき。施設のこと、救急車を呼ぶとどうなるかも解かった。
- ・VRで老いた姿がわかり、近い将来の参考になった。
- ・救急車を呼ばない事前対策は必要だと学びました。事前の話し合いの機会を作る大切さを感じた。
- ・VRで実際に体験できたり、グループで色々な人の意見や経験をきくことができ、とても勉強になった。
- ・VRで自分だけの世界に入るととても良かった。
- ・年代の違う方の意見を聞けて、今の私の気持ちが年を重ねるごとに代わるのだろうなという点に気づかされた。あたり前のことなのに、自分自身におどろきました。
- ・どのように最後過ごすのかは、元気なうちから話し合うことが大切であると思った。そうすることで、いろいろ準備ができ、思うような最後が迎えられると思う。
- ・“生きること”を考えるきっかけになった。



【今後の希望等】

- ・「人生会議」の進め方、体験がほしい。
- ・1年に1回くらいこのようなセミナーがあれば良い。またあれば1～2年後に来てみたい。
- ・当事者と家族を軸にセミナーが設計されているように思います。日本は今後少子高齢化、独身者の増加など、旧来のような家族そのものが無いという方々をどうすれば良いのか。今後に期待している。
- ・地域の方と話したい人も多い気がしたので、感想を共有する時間はもう少しあって良いと思う。

【日 程】

令和 7 年 2 月 27 日（木） 14:00～17:00

【場 所】

天王寺区民センター

【内 容】

特別講演

今後の在宅医療・介護連携推進事業の深化を探る

～在宅医療の現場から見た在宅医療・介護連携の未来予想図～

講師 医療法人社団オレンジ 理事長 紅谷 浩之 氏

大阪市内「在宅医療・介護連携相談支援室」の活動報告

（北区・此花区・西区・西淀川区・生野区・城東区・東住吉区・平野区）

令和6年度
大阪市『在宅医療・介護連携相談支援室』
(在宅医療・介護連携支援コーディネーター)

活動報告会

令和 7 年 14:00～17:00
(13:30より受付開始)
2月27日(木)

大阪府では本市に「在宅医療・介護連携相談支援室」を設置し、医療と介護の連携を推進する活動を実施しています。
今回活動報告会では、在宅医療・介護連携相談支援室の活動報告に加え「在宅医療の現場から見た在宅医療・介護連携の未来予想図」に関する特別講演を実施します。
在宅医療・介護連携推進事業に関する医療・介護関係者、市町村の事業担当者等の皆様、ぜひご参加ください。

内容 第1部 特別講演
「今後の在宅医療・介護連携推進事業の深化を探る
～在宅医療の現場から見た在宅医療・介護連携の未来予想図～」
医療法人社団オレンジ 理事長 紅谷 浩之 氏

第2部 報告
大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」の活動報告

会場 天王寺区民センター
大阪市天王寺区生玉町7-57（アクセスマップは裏面）

対象 在宅医療や介護に関わる専門職、市区町村の事業担当者

定員 200名（先着）

主催 大阪市健康局 健康推進部 健康増進課
TEL 06-6208-9940 FAX 06-6202-6967

申込期限 **2月17日(日)まで**

3. 区役所・相談支援室に対する積極的支援

今年度の取組

(1) 区役所への支援

在宅医療・介護連携推進事業 区担当者等説明会の実施

区役所への個別支援・具体的アプローチに対する支援

(在宅医療推進会議にて報告済)

(2) 相談支援室への支援

新任コーディネーターの人材育成と相談支援室間の相互連携を支援

(3) 区役所と相談支援室への支援

『区役所担当者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催

相談支援室への支援 取組(2)

継続実施中

【新任コーディネーターへの支援】

＜支援内容＞ ・3か月以降・・・先輩コーディネーターの実践を見学 2名

※コーディネーターの役割、独自の取組とその内容説明、在宅医療・介護連携定例会議の見学

＜実習記録・感想＞ ・事業開始当初は、挨拶回りを行い、医療・介護従事者とコーディネーター間に隔たりのない関係が構築されていると感じた。コーディネーターの小さな気づきが多職種の支えに結びつくと思った。

【コーディネーターへの支援】

適宜コーディネーター連絡会を開催し、トピックスの提供やコーディネーター間の情報共有を実施

第2回 区役所担当者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会

【日 程】 令和6年11月29日（金）

【内 容】 講演

在宅医療・介護連携推進のための地域診断

～評価の視点を踏まえた事業推進～

講師 梅花女子大学 情報メディア学科 教授 綾部 貴子 氏

グループワーク

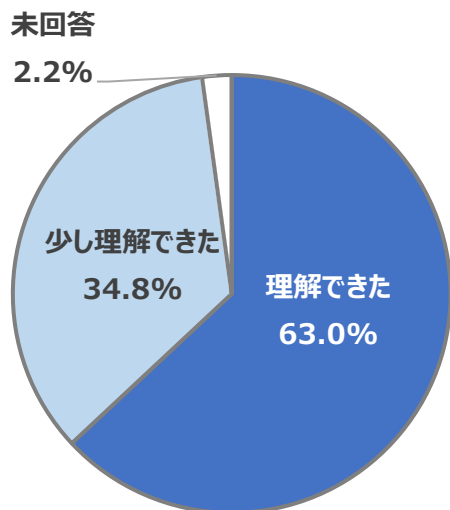
地域の現状把握をするために活用できる機会やデータを考えてみよう

【参加者】 48名（ 区役所職員 17区 25名 コーディネーター 20区 23名 ）

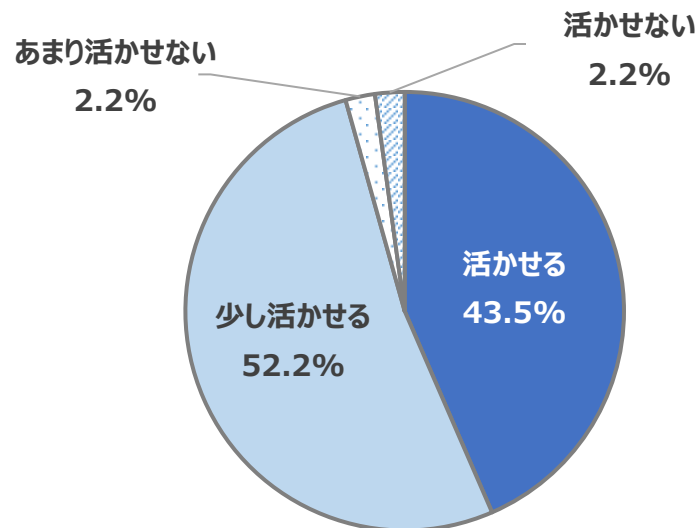


<アンケート結果> 回収数 46名（回収率 95.8%）

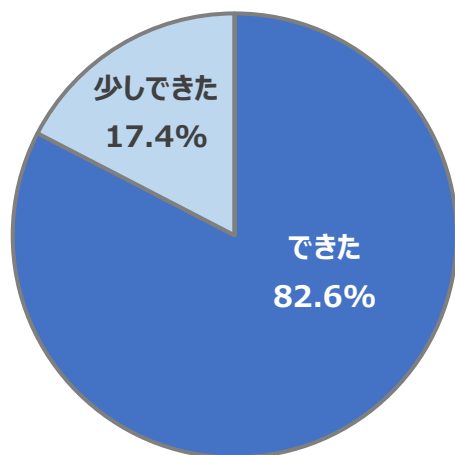
1) 講演内容の理解度



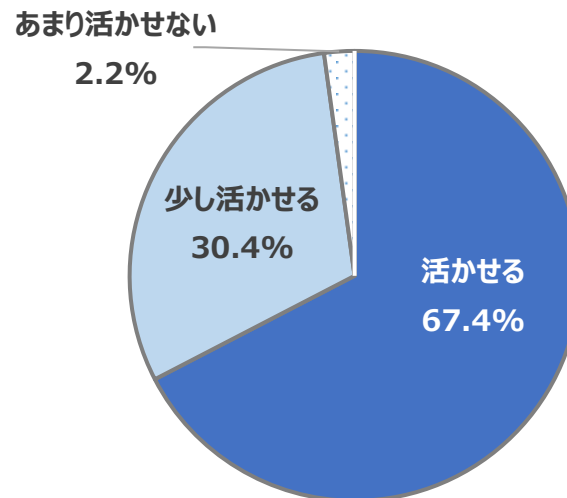
2) 講演内容の業務への活用度



3) 情報共有・意見交換できたか



4) グループワークの業務への活用度



【自由記載】

【業務に活かせるような内容について】

- ・区とコーディネーターの役割の再確認ができた。
- ・区役所とコーディネーターが把握している現状を突き合わせることから始めたい。また、目標をその都度確認していきたい。
- ・区役所と事業評価等を共同でできれば、次へつなげやすくなると感じたため、行っていきたい。
- ・医療・介護のデータを把握する資料をいただいたので、再度確認してまとめていきたい。
- ・連携の評価尺度については参考にしたい。
- ・事業を推進するために、改めてPDCAサイクル、特に評価の視点の重要性を認識した。
- ・区役所とコーディネーターでのPDCAの突合せを丁寧に行っていきたい。様々な会議体のデータも収集・活用していきたい。
- ・他区の実践やそれぞれの立場の方からの意見が、今後の事業推進に向けて活かせると思った。
- ・他区の実践が聞ける機会なので、良い取り組みは実施に向けて検討したい。

【今後の研修の要望】

- ・他区の実践
- ・広域連携が進む研修会
- ・災害に対する実践
- ・拠点事業との合同研修会

地域包括ケアシステム推進研修会

【日 程】 令和6年11月8日（金）

【内 容】 講演

地域包括ケアシステムの基本的考え方と今後の動向

講師 兵庫県立大学大学院 社会科学研究科 教授 筒井 孝子 氏

活動報告（各区包括的支援事業の連携について）とグループワーク

【場 所】 中央区民センター

【参加者】 173名

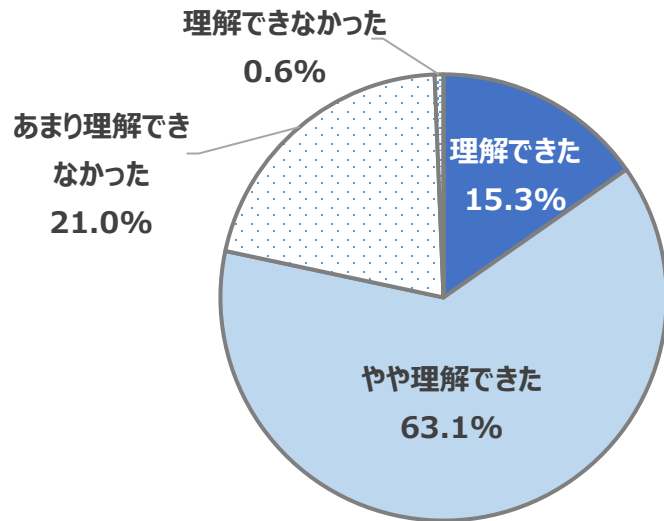


<参加者内訳>

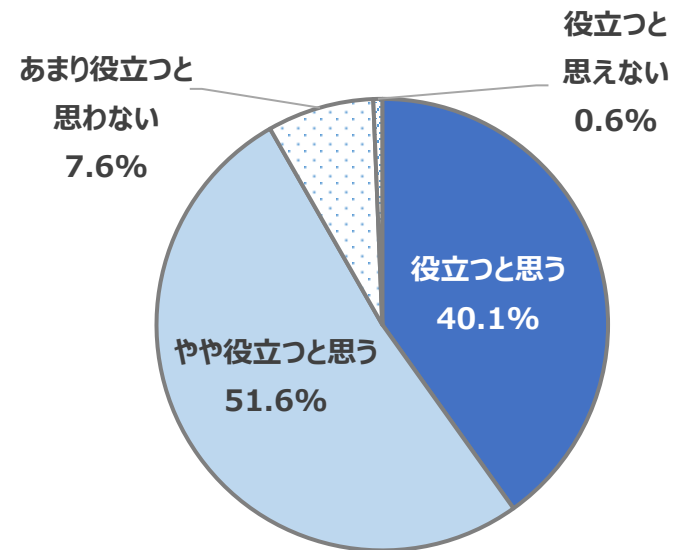
在宅医療・介護 連携相談支援室	地域包括支援 センター	認知症総合 支援事業	生活支援 体制整備事業	区役所 保健担当	区役所 福祉担当
23	20	66	24	21	19

<アンケート結果> 回収数 157名（回収率 90.8%）

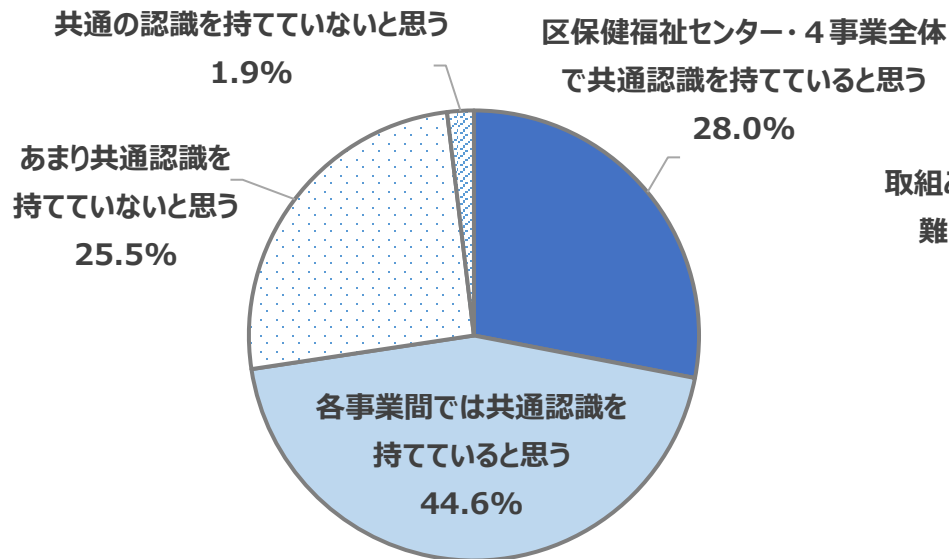
1) 講演内容の理解度



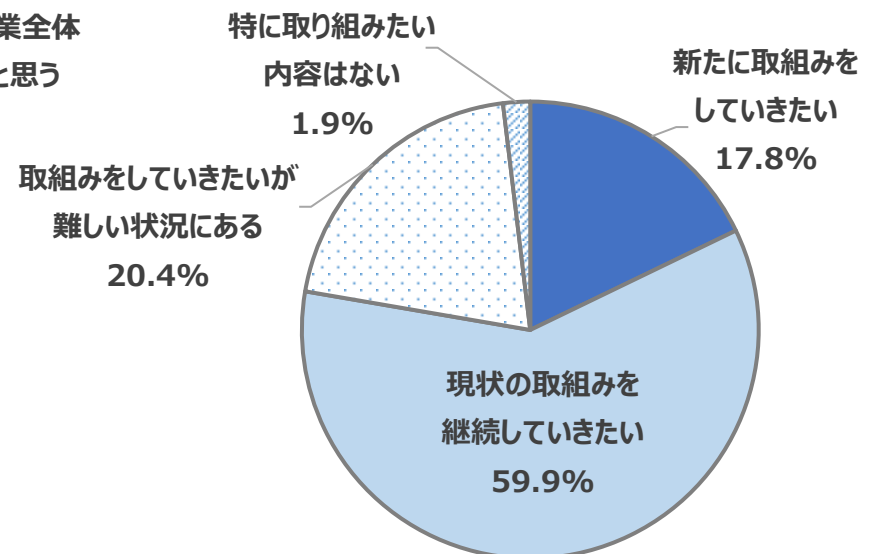
2) 講演内容の業務への活用度



3) 情報共有・意見交換できたか



4) グループワークの業務への活用度



自由記載

- ・研修会講演は地域包括ケアシステムや国の動向について、幅広い内容で勉強になった。地域で落とし込むには色々なハードルがあると感じた。各種ガイドラインやマニュアルの紹介があったので、少しずつ確認しようと思う。
- ・講演は最初は難しくてついていけるか不安だったが、講師の方が具体的な事例を挙げながら説明してくださったので、より理解を深めることができた。難しく考えすぎずにできることからやっていくことが大事とのお言葉を忘れずに、今後も取組みを進めていきたいと思う。
- ・明らかな人口減少の要因や、またそれに伴う婚姻率・出生率の低下が戸籍制度を持つ日本独自の人口動態傾向であるという講義内容、地域医療施策と地域包括ケアシステムは表裏一体であるという解説が繋がり、そのことが、現状から先2040年に向けて上がってくる地域課題のベースにあると理解が深まり、参考になった。
- ・医介連携の事業をどう進めていくか悩む毎日だったので、久しぶりに本研修に参加して、講師の先生のお話も参考になり、他事業を知り、4事業が共通認識を持って進めていくことが大切なのだとよくわかった。
- ・グループ分けメンバーも工夫されていて、同じ活動についても、4事業、様々な立場からの意見を聞くことができ、参考になった。グループワークの時間が短いと感じるくらい、様々な意見交換ができたように思う。
- ・4事業で共通の研修を受けることで一緒に立ち位置から考えることができる。
- ・集合型の研修は色々な考えを聞ける機会であるので、できるだけ他人の意見を聞く時間を増やしてほしい。